

「政治主導・官邸主導」は新自由主義をより徹底するもの

第52回自治体学校で学んできました

7月31日から3日間、地方政治をめぐる最新の情報を得ようと、福井市で行われた第52回自治体学校に参加してきました。このうち、初日の模様について報告します。

初日は記念講演とリレートークでした。まず、記念講演。専修大学の晴山一穂教授が、「政治主導・官邸主導の論理と問題点、国民のための行政実現に向けた方向について語られました。

「政治主導・官邸主導」では国民の声が正しく反映されない

民営化の促進、規制緩和、競争原理の徹底などを特徴とした新自由主義政策。民主党政権の「政治主導・官邸主導」論は、橋本行革、小泉

の観点としてまとめられた3つの問題点は、今後、統治システムのある方を考える重要な視点でもあると思います。

視点に置き換えるとこうなります。①国民の意思が国会に正しく反映されているか、②政策決定過程に国民の声が正しく反映されているか、③省庁の存在意義が正しく反映されているかどうかです。これらの視点は地方政治でも大事な視点となると思います。

リレートークは立命館大学の平岡和久教授、能登ワイン夢一輪館代表の高市範幸さん、ジャーナリストの猪熊弘子さん、『反貧困』の著者、湯浅誠さんの4人。いずれも、ききがいのあるスピーチでした。

平岡教授は地域主権戦略大綱の目玉のひとつである「ひも付き補助金の一括交付金化」の問題点を浮き彫りにしました。

高市さんは元役場職員。ブルーベリーでワインづくりをするなど、官民一体でふるさとの地域づくりを全力を上げてきたド

ラムをわかりやすく、楽しく語ってくれました。能登を紹介する時に「はい、左手を上げてください。そして、その手を胸のところに持つてきて：親指をちよつと曲げて：」の仕草は湯浅さんなども使い、今回の自治体学校で流行しました。

ジャーナリストの猪熊さん、朝日新聞のエアラの育児雑誌版を編集しているそうです。「子ども・子育て新システム」の「基本制度要綱」について解説



リレートーク。中央は湯浅誠さん

改革によつてすめられた新自由主義をより徹底・純化しようとするもの。だとの晴山教授の指摘は新鮮でした。「政治主導・官邸主導」論

するなかで通勤時間などによる「要保育度の認定」が行われようとしていることを明らかにしました。猪熊さんの、「子育てはゆつたりした時間の中で」との訴えもよかったです。

湯浅さん、「反貧困と自治体行政」というテーマで、行政に対する注文などを歯切れよく語りました。「貧困＝貧乏＋孤立だ」「自治体と自治体の間には隙間がないはずなのに貧困問題では隙間がある」「自治体には汗をかければ損をするという思いがある」「官の理屈がわかる民、民の理屈がわかる官、このためには通訳がいる」などいくつものフレーズが印象に残りました。



76センチのナマズ

先日、大きなナマズを見せてもらいました。近くの吉川で釣ったという大物は76センチもあります。これまで30センチほどのものしか見たことがなかったので、この大きさにはびっくりしました。このナマズを釣った人はスーさん、吉川区代石に住む鈴木芳隆さんです。鈴木さんは大きな鯉を釣ったことでレポートでも紹介したことがあります。今回の餌はミミズだということでした。

春よ来い 第一九回 あねさかぶり

大流行したバンダナが少しづつ減り、最近では「あねさかぶり」が盛り返してきたように思えるのは気のせいでしょうか。手ぬぐいやタオルを使って頭にかぶり、後ろでキュッと結んで動き回っている人の姿をあちこちで見かけます。

「あねさかぶり」がいつ頃から始まったのかはわかりませんが、ずいぶん昔からあったように思います。私が小さかった頃、仕事をしている女衆は掃除などの家事ではもちろんのこと、田畑でも必ずと言ってよいほど「あねさかぶり」をしていた記憶が残っています。言うまでもなく、わが家の母も「あねさかぶり」をしていました。

顔の小さな母が「あねさかぶり」をすると、小さな顔がさらに小さく見えました。母は昔から暗くなっても外で仕事をするのが習慣になっていました。薄暗いなか、小さな「あねさかぶり」が畑や田んぼで動いているところを見つけるとなぜかホッとしたものです。

かく言う私も二〇代の頃から「あねさかぶり」をするようになりました。野良仕事をする場合は帽子をかぶるのが常でしたので、おそらく直接的なきっかけは帽子を忘れた時だったのでしょうか、いったんやり始めたならやめられなくなってしまうました。日よけになって、汗をぬぐえる。髪の毛の乱れを気にしない。少々の雨なら雨よけにもなる。タオルをかぶるだけで、こんなにもたくさんの効用があるのです。

私の「あねさかぶり」は草刈りや稲刈りなどの外仕事をする時だけでなく、牛舎の中での仕事をする時にも広がっていました。餌くれ、掃除、乳搾りなどいつも「あねさかぶり」をしていました。足クセの悪い牛であっても、この格好で牛の体に頭をつけて、「いいこになってるや」と声をかけ、乳搾りをしました。ありがたいことに、タオルが汚れても、帽子と違って簡単に洗濯ができました。

タオルを使った「あねさかぶり」は、さらに、ビラ配りや新聞配達などの活動にまで広がりました。数年前まで私の愛車は軽トラで、クーラーはついていませんでした。梅雨明けから稲刈りの終わる頃まで、暑い日はいつも窓を大きく開けて動き回りました。この時はもちろん、「あねさかぶり」です。頭にタオルをかぶり、時々、流れる汗をぬぐいながら走りました。

窓を開けたまま走ると、車の中にいろんなものが飛び込んできたり、通り抜けたりします。ある時、シャボン玉が入ってきて、スーツと抜けていきました。子どもが飛ばしていたのが流れてきたのでしようね。また、別の日のこと、右側の窓から突然「お客さん」がやってきて、私の顔にとまりました。これはアブラゼミでした。

今年梅雨明け後、猛暑の日が続いています。日中の日よけは欠かせません。先日、草刈りの時、いつもの「あねさかぶり」スタイルで作業をしました。おもしろいもので、このスタイルだと頑張りがききます。すっかり大きくなった草を草刈り機でどンドン刈り倒し、二時間以上も仕事をしました。

小雨模様だった日の新聞配達でも「あねさかぶり」をしました。ある集落で、私の頭を見た七〇代のお母さんから「あら、おまえさん、おもしろい格好してるね」と言われたので、とっさに「頭の毛がすっかり薄くなっちゃってね。雨降るとびしゃびしゃするんだわね」と言ってしまうました。でも、そのお母さんは、私をからかって言ったわけではないのです。目元はやさしく、笑ってしまいましたから。この暑い時期、あなたも「あねさかぶり」を試してみませんか。

杜氏の郷、9月頃までに私募債返済の方向性

市議会の第三セクター等特別委員会が三セク会社を直接訪ね、経営陣と懇談を重ねています。先月30日は第2回目、吉川区の「杜氏の郷」と「みなもとの郷」などを訪問しました。

訪問先では、冒頭、塚田隆敏委員長が「三セクには市民の厳しい目がある。みなさんの課題、問題点を抽出していただき、一緒に勉強させてほしい」と挨拶。その後、三セク会社側から会社概要、現在かかえている課題などの説明を受け、意見交換をしました。

このうち、「杜氏の郷」では金沢専務が対応。同専務は、「一昨年12月議会で増資の御支援とご指導をいただき感謝申し上げます。ようやく再生の道筋をつけてもらったがとりまく状況は厳しい」「今期については天地人効果があって前年対比120%の売り上げとなった。1300万円の赤字は想定内の数字」「地元販売は役員以外の小売店からも使っていただくようになってきて、ようやく雪が解けてきたという印象だ」「道の駅での売り上げが強み。この駅を拡充できないか。できれば移動型の足湯がほしいと思っている」「現在、(酒造施設の)稼働率は40%。少なくとも60%に上げ、安定させたい。来年3月が私募債の返済期限であり、この9月頃までに返済の方向性を出したい。今年が大きな山場となる」とのべました。



委員会のメンバーからは、「増資には賛成したが昨年度の1300万円の赤字にはショックを受けた。直販も結構だが、小売店販売も重要だ」「ゆっつかりの郷との連携で(双方のメリットを)活かす努力をすべきではないか」「継続的に売上げを伸ばしていくには大口のJAグループ、この販売力を利用しない手はない。営業のやり方も考えていかねばならないのではないか」などの意見や注文が次々と出されました。